とほほな小噺

まめ太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とほほな小噺

【Ｎコード】
Ｎ３４７８ＢＡ

【作者名】
まめ太

【あらすじ】
過去作品サルベージ＆少々レイアウト変更＆加筆修正。

ブゥードゥーな結末

「よお、早いじゃないか。　待ってたのか？」

　洒落たバーのカウンターで、遅れて入店した男が会話を始める。待っていた女性が軽く手を挙げた。どこかの会社員らしく二人ともスーツを着ている。

　いつもの常連……、仮にS氏、M女史としておこう。

M女史
「……待ってた、じゃないですよ。二時間も放っとらかしにしておいて……、」

S氏
「すまん、すまん、……いや、ちょっと、込み入った事情がさぁ……」

M女史
「え？　なにか、あったんですか？」

S氏
「いや、別になかった。」

M女史
「もうっ！」

S氏
「あれば良かったのになー、ってハナシだ。

それよかさぁ、小耳に挟んだ話があるんだ、まあ聞いてくれよ。」

M女史
「え？　なんです？　なんです？」

S氏
「興味深々だな。
実は某国でのハナシでな……、ある男が嫁の来てがない事を、その母親に相談したという。」

M女史
「……マザコンの話は、ちょっと。」

S氏
「聞けっての。……その母親の返答は、こうだ。
それは、きっと呪いがある、生贄を立ててお祓いをしなければ、ってな。
で、ブードゥーの秘術にのっとって、儀式を行う事に決定した。」

M女史
「祟りとか呪いとかも、嫌いなんですケド……？」

S氏
「聞けよ、テメェは！
……ブードゥーの儀式ってのは、あれだ、人身御供なのさ。
男は喜んで自分の姪っ子を攫ってきて、生贄にして、殺した。」

M女史

「……ヤな国ですね、そんな事が横行するなんて……、」

S氏
「ブードゥーにも色々あるそうだが、この男の宗派は、生贄を料理して食ってしまうんだ。……何十人もの客が招かれ、少女は捌かれて、肉料理にして、振舞われた。炒め物、スープ、ソテーに唐揚げ。幾十の皿に少女の身体から取った肉が盛られたんだ。人肉ってのは、ブタと変わらんらしいから、白くてプルプルしていたそうだぞ？」

M女史
「……マスター、さっきの注文、取り消して。うん、唐揚げ。いらないから。」

S氏
「俺が食うんだよ！　勝手に注文、下げるな！
……少女はまだ、１１，２歳だっていう。可哀想になぁ。で、俺の話では、少女はメインディッシュじゃないから、詳しい経緯は省くとしよう。」

M女史
「残虐描写オンリーのトークショーかと思ってました。」

S氏
「面白かったのは、この後なんだよ。
無論、行方不明という事で、警察が捜査を始めるよな？　で、事件が明るみに出た。男とその母親は言うに及ばず、招待客まで一網打尽。」

M女史

「ほぉ、それは良かった。……すっ、としました。さすが、警察。」

S氏
「そうか？　関係した三十数名、全員銃殺になったって聞いてもか？
……顔が白くなったぞ？　大丈夫か？
某国は国を挙げて、ブードゥーを弾圧しているからな。当然だ。
人の肉を一口でも口にしたら、銃殺刑。厳しいねぇ、くくく。
全員逮捕までの道程が、どれほど凄惨を極めたか……想像するだに、楽しいとは思わないか？　国家権力ほど、残忍なモノはまあ、ないだろうしな。ほら、唐揚げが来たぜ、食えよ。」

M女史
「……いやぁ……楽しいトークを、どうも、ありがと……。
マスター、お勘定してっ。」

S氏
「あらら。お気に召しませんでしたかね？
なあ、なあ、じゃあ、こんなハナシはどーだ？」

M女史
「いやだー、もう聞きたくなーい！」

M女史は両手で耳を塞ぎ、逃げるようにカウンターを立って、店を出てゆき……。
S氏は御満悦に唐揚げを平らげ、一言。
「はっはっはっ。長い豚（人肉）ごときが怖くて、トリが食えるか。」

とほほな夜の小噺でした、ちゃんちゃん。

ＳＭ談義

今日も、最初に店へ来たのはＭ女史の方だ。
連れの方はなかなか来なくて、彼女はイライラしているようだった。

Ｓ氏
「よお、待ったか？」

Ｍ女史
「いいえぇ、ほんの二時間です。こないだと同じですからぁ？」

Ｓ氏
「うーん、いい笑顔。
惚れ直すねぇ。そうそう、今日、読んだ雑誌に面白い記事があったんだ、聞いてくれよ。」

Ｍ女史
「……また猟奇殺人とか残虐事件簿とかじゃないでしょね？」

Ｓ氏
「俺はそこまで悪趣味じゃないぞ！　ほら、昔、話題になった映画でさ……世界の中心で……ナントカいうヤツ。」

Ｍ女史
「世界の中心で愛を叫ぶ、でしょ？　それがどうしたんです？」

Ｓ氏

「当時の週刊誌を見つけてな。面白い記事があったんだ。
あれを評して、最近は恋愛に疲れて、皆が自分捜しを止めたがっているからだ、とか言うんだよ。
ホラ、あの話は最後、恋人が死んじゃうだろ？　死んだってコトはそこで、愛が完結しちまうんだとさ。愛の放浪者をやめたい願望だってさ。
ほら、今まで恋愛至上主義で、「本物の愛はドコ？」みたいなノリが多かっただろ？　で、恋愛は自己責任、確証求めて苦悩する……みたいな話が王道だったろう。
本当にこのヒトが、運命の相手なの？　みたいなさ。」

M女史
「はぁ……。女性の好むシチュエーションの三大柱ですよね、取り柄なしの普通人が主人公でなぜかモテモテ。
んで、複数の相手が主人公を巡って火花を散らすんだけど、決まって金持ちでルックス良くって、デキる男性ばかりですよね。
さらに主人公は優柔不断で、自分じゃ絶対、どっちか決めないんだ。」

S氏
「そうそう、よく解かってるじゃないか。
で、当時から、『自分じゃ決めない』が加速度的に進んでいる、みたいな話だった。」

M女史
「はぁ……そう言われれば、そうかも。」

S氏
「SMでも同じことが言えるんじゃないか？　……あれだって、見方を変えりゃ、自分で責任取るのが嫌だ、ってのが見え見えだよな。

調教されて、洗脳されたから、本物の愛かどーかはわっかりませーん、てなモン？　本末転倒、ってか、愛ってナニ？とか聞きたくなるね。」

M女史
「……あなたの口から『愛』の定義なんて聞かされても……、」

S氏
「なんだよ？」

M女史
「いや……なんか、胡散臭い……
ペテン師に引っ掛けられる小娘、みたいな気分なんですけど……？
なんか企んでます？」

S氏
「世界の中心であ痛と叫んでやろうじゃないか！
……まあ、そんなワケでホテル予約してるんだが、付き合わん？」

M女史
「いやです。」

S氏
「即答かい。
まあ、他人任せの恋愛がしたい、ってのが最近の傾向だとさ。
で、他人任せに無責任な夜を過ごして、それに対する言い訳がほしい、と、そういうことだろうな。」

M女史

「ははあ……、失敗の言い訳を先に用意してから、付き合いたいわけですね？　貴方なんかさしずめ、責任取りたくないからＳＭ好きなんでしょ？」

Ｓ氏
「ぎく。」

Ｍ女史
「読めてますよ、ちゃんと。
　マゾは包容力があって、我侭言い放題でも許してくれて、飽きて捨てても恨まれない……とか、本気で思ってません？」

Ｓ氏
「ぎく、ぎく。」

Ｍ女史
「マゾだから、冷たく捨てられるのも快感だ、なんて勘違いしてんでしょ？
ロリコンのサドなんて、最悪ですもんね。相手が弱いの解かってるから、好き放題できる、なんて……見え見えですよ、その心理。」

Ｓ氏
「……それ、なんかで吹き込まれたんだろ？」

Ｍ女史
「先日、テレビでやってました。
犯罪心理学のエライ先生の受け売りです。精神年齢が低いんだそーですよー？　聞いてますー？」

　Ｓ氏は頭を抱えてしまい、Ｍ女史はしてやったり、の笑みを浮か

べて手にした水割りを傾けた。Ｓ氏がすごすごと一人寂しく引き上げた後……。

Ｍ女史
「ねぇ、マスター。
精神年齢が低い、ってコトは、それだけ自己制御が出来ないって意味だから、犯罪に走る確率も高い、ってコトですよねぇ？」

マスター
「どうでしょうね……、
そう言えば、スーパーフリーのとある幹部はロリコンで、１２歳の少女を強姦した、と、自分のＨＰに書いていたそうですけど？」

Ｍ女史
「あはは、それはバカでしょ？」

マスター
「ええ。
けど、スーフリの事件は、連帯感とか仲間外れにされたくない、とか言った馬鹿げた理由で行われていたわけですからね……素質があった、とかより、本当に犯人達の精神が幼なすぎただけ、と言われていますよ？」

Ｍ女史
「ふーん。そういうネタが大好きなあの人も、要注意ですよね。
好きってコトは、それを肯定して受け入れる素地があるって事で……言い変えれば、幼稚だと告白してるようなものですよね？」

マスター

「そうですねぇ……、そう言えば、警察にはＷｅｂ犯罪捜査班というのがあるそうですから、案外、すでに目を付けられて、チェックされているかも知れないですね。」

一人、カウンターでちびちびとグラスを傾ける彼女が、まじめに話を聞いているかどうかは分かりにくい。マスターは気付かれないように肩を竦めて、グラス磨きを再開した。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3478ba/

とほほな小噺

2012年1月9日00時52分発行